

付属資料

目 録

1. 市町村別データ集（H29～H5）
2. 丹沢大山自然再生計画 実施状況（第1期～第4期）暫定版

市町村別データ集

(H29～H5)

※第4期計画期間のうち、現時点では1ヶ年の実績が整理できるが、自然再生の傾向を見るためには期間が短いことから第3期計画の実績も加えて整理した。

I ブナ林の再生

(1) ブナ林（奥山域自然林）の保全・再生対策

〔重点〕林床植生衰退地等での土壌保全対策の実施（年度別実績）

（単位：ha）

	施工面積							
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
相模原市	6.70	3.15	2.90	4.40	0.50	0.00	0.00	17.65
秦野市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.22	0.00	4.22
厚木市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
伊勢原市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
松田町	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
山北町	3.40	4.40	0.95	4.70	10.10	6.00	9.30	38.85
愛川町	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
清川村	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
計	10.10	7.55	3.85	9.10	10.60	10.22	9.30	60.72

上記のうち、植生保護柵

（単位：m）

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
相模原市	2,103	1,406	1,761	856	128	0	0	6,254
秦野市	0	0	0	0	0	371	0	371
厚木市	0	0	0	0	0	0	0	0
伊勢原市	0	0	0	0	0	0	0	0
松田町	0	0	0	0	0	0	0	0
山北町	1,008	2,002	677	1,382	2,398	2,390	2,560	12,417
愛川町	0	0	0	0	0	0	0	0
清川村	0	0	0	0	0	0	0	0
道志村	0	0	0	0	174	0	0	174
計	3,111	3,408	2,438	2,238	2,700	2,761	2,560	19,216

（参考）山地域における植生保護柵の設置状況（年度別実績）

（単位：m）

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
相模原市	570	332	510	450	93	0	0	1,955
秦野市	8,148	4,026	4,401	8,223	4,992	5,821	1,564	37,175
厚木市	1,288	0	733	1,685	0	408	654	4,768
伊勢原市	0	290	509	829	188	638	0	2,454
松田町	0	0	1,353	666	0	0	1,149	3,168
山北町	1,099	4,393	1,026	1,131	3,007	452	383	11,491
愛川町	0	0	0	0	0	0	0	0
清川村	2,997	2,182	2,074	2,672	3,221	2,188	2,154	17,488
計	14,102	11,223	10,606	15,656	11,501	9,507	5,904	78,499

※高標高域人工林における実績を含む。

Ⅱ 人工林の再生

(1) 地域の特性に応じた適切な森林整備の推進

公益的機能を重視した混交林等への転換（年度別実績）

（単位：ha）

	県事業							
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
相模原市	108.30	265.54	196.31	225.49	143.51	394.02	350.26	1,683.43
秦野市	37.33	140.69	35.04	67.38	72.68	46.46	52.02	451.60
厚木市	12.23	28.47	13.39	0.00	1.94	5.61	1.06	62.70
伊勢原市	15.33	50.88	56.13	21.39	40.18	37.95	6.04	227.90
松田町	62.38	10.63	101.09	184.72	96.69	129.02	158.19	742.72
山北町	216.21	358.67	332.27	302.77	283.72	279.59	196.3	1,969.53
愛川町	1.83	0.70	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.53
清川村	71.04	56.54	53.07	26.93	41.12	28.12	31.15	307.97
計	524.65	912.12	787.30	828.68	679.84	920.77	795.02	5,448.38

（単位：ha）

	補助事業							
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
相模原市	10.70	6.23	0.00	0.00	0.00	3.02	5.68	25.63
秦野市	3.22	9.95	4.40	0.27	6.32	67.13	54.86	146.15
厚木市	0.00	1.32	3.37	5.09	6.42	4.44	0.00	20.64
伊勢原市	2.78	4.11	0.90	4.07	2.41	4.47	7.12	25.86
松田町	16.04	8.96	6.92	10.80	7.12	16.04	14.98	80.86
山北町	3.45	7.78	6.31	6.95	6.51	3.66	7.35	42.01
愛川町	4.71	27.56	17.41	2.90	2.69	2.59	1.35	59.21
清川村	40.98	39.86	37.61	53.79	38.46	35.27	36.16	282.13
計	81.88	105.77	76.92	83.87	69.93	136.62	121.50	676.49

Ⅱ 人工林の再生

(3) 県産木材の有効活用の促進と基盤の整備

森林資源の活用による持続可能な人工林の整備（年度別実績）

（単位：ha）

	県事業							
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
相模原市	15.13	13.23	21.06	11.63	0.00	0.00	0.00	61.05
秦野市	51.06	33.68	30.02	37.25	0.00	18.29	18.95	189.25
厚木市	0.00	0.00	0.00	10.35	0.00	0.00	9.97	20.32
伊勢原市	21.45	17.95	16.34	0.00	0.00	3.97	3.97	63.68
松田町	44.73	56.38	20.74	14.20	0.00	10.39	10.39	156.83
山北町	29.42	12.04	18.01	8.34	0.00	50.43	30.37	148.61
愛川町	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
清川村	13.13	21.92	2.95	21.87	33.54	5.07	19.01	117.49
計	174.92	155.20	109.12	103.64	33.54	88.15	92.66	757.23

（単位：ha）

	補助事業							
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
相模原市	35.67	49.57	49.31	45.84	60.15	59.02	94.57	394.13
秦野市	59.64	202.03	222.35	276.16	304.70	292.03	347.56	1,704.47
厚木市	26.46	50.35	43.61	81.41	62.38	70.96	83.98	419.15
伊勢原市	56.02	103.63	129.80	115.13	104.11	154.32	92.50	755.51
松田町	18.82	37.85	32.30	37.31	19.53	15.87	18.42	180.10
山北町	34.95	35.24	30.54	59.67	44.71	79.28	60.66	345.05
愛川町	16.86	35.50	39.28	40.31	47.27	38.05	24.06	241.33
清川村	65.54	102.83	115.15	119.02	127.65	147.13	134.63	811.95
計	313.96	617.00	662.34	774.85	770.50	856.66	856.38	4,851.69

Ⅱ 人工林の再生

(3) 県産木材の有効活用の促進と基盤の整備

県産木材の有効活用の促進（年度別実績）

（単位：m³）

	補助事業、県事業							
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
相模原市	3,816	3,730	3,981	3,949	1,794	3,438	5,412	26,120
秦野市	4,077	3,711	4,321	4,638	4,418	5,011	5,239	31,415
厚木市	367	622	872	1,561	874	2,605	2,002	8,903
伊勢原市	708	1,151	804	834	977	1,089	1,072	6,635
松田町	0	487	740	525	1,009	678	669	4,108
山北町	2,093	4,455	3,732	4,509	1,945	2,010	2,266	21,010
愛川町	270	535	484	764	803	921	636	4,413
清川村	327	329	357	357	215	239	393	2,217
計	11,658	15,020	15,291	17,137	12,035	15,991	17,689	104,821

林道の改良と作業道の整備（年度別実績）

（単位：路線）

	林道改良						
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
相模原市	8	4	3	0	3	4	3
秦野市	4	2	0	1	2	3	2
厚木市	0	0	0	0	0	0	0
伊勢原市	2	1	0	1	3	1	2
松田町	2	3	2	4	2	1	1
山北町	4	6	6	8	3	2	8
愛川町	0	0	0	0	0	0	0
清川村	4	0	2	0	0	2	2
計	24	16	13	14	13	13	18

※年度ごとに重複路線あり。県事業のみ。

（単位：路線）

	作業路							
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
相模原市	0	1	7	5	6	6	9	34
秦野市	3	8	4	9	9	8	3	44
厚木市	3	4	4	2	4	5	3	25
伊勢原市	4	7	6	5	5	7	4	38
松田町	2	3	2	3	2	3	2	17
山北町	2	3	2	3	2	2	2	16
愛川町	1	4	3	5	4	4	4	25
清川村	0	0	0	0	0	0	1	1
計	15	30	28	32	32	35	28	200

※補助事業のみ

Ⅲ 地域の再生

(1) [重点] 地域主体の鳥獣被害対策や、地域特有の課題に応じた森林整備等の実施の支援

(年度別実績) (関連: V 3 (2))

獣害防護柵の設置 (補助事業)

(単位: m)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
相模原市	0	0	0	0	0	0	0	0
秦野市	300	450	1,150	4,444	10,435	3,846	9,958	30,583
厚木市	0	0	0	0	0	0	0	0
伊勢原市	3,710	6,746	1,140	4,287	1,910	600	4,080	22,473
松田町	0	0	0	0	0	0	0	0
山北町	0	0	0	0	0	0	0	0
愛川町	0	0	0	0	0	0	0	0
清川村	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4,010	7,196	2,290	8,731	12,345	4,446	14,038	53,056

(2) 里地里山の保全等の促進

(単位: 地域)

	里地里山活動への支援(地域数)						
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
相模原市	0	0	0	0	0	0	0
秦野市	5	5	5	4	4	4	4
厚木市	2	2	2	3	3	3	3
伊勢原市	0	0	0	0	0	0	0
松田町	1	1	1	1	1	1	1
山北町	0	0	0	0	0	0	0
愛川町	0	0	0	0	0	0	0
清川村	0	0	0	0	0	0	0
計	8	8	8	8	8	8	8

(単位: 団体)

	里地里山活動への支援(団体数)						
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
相模原市	0	0	0	0	0	0	0
秦野市	6	6	6	5	5	5	5
厚木市	4	4	4	6	6	6	6
伊勢原市	0	0	0	0	0	0	0
松田町	2	2	2	3	3	3	3
山北町	0	0	0	0	0	0	0
愛川町	0	0	0	0	0	0	0
清川村	0	0	0	0	0	0	0
計	12	12	12	14	14	14	14

Ⅳ 溪流生態系の再生

(2) 溪流生態系の保全・再生事業の実施

ダム湖上流域における土砂流入防止対策（年度別実績）

（単位：箇所）

	治山事業							
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
相模原市	0	1	2	2	3	0	3	11
秦野市	3	2	1	3	3	2	2	16
厚木市	0	0	0	0	1	0	0	1
伊勢原市	0	1	1	0	3	0	0	5
松田町	0	0	0	0	0	1	1	2
山北町	3	5	5	12	6	5	5	41
愛川町	0	0	1	1	0	1	1	4
清川村	0	0	0	0	0	0	1	1
計	6	9	10	18	16	9	13	81

（単位：箇所）

	砂防事業							
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
相模原市	1	0	0	0	0	0	0	1
秦野市	0	0	0	0	0	0	0	0
厚木市	-	-	-	-	-	-	-	-
伊勢原市	-	-	-	-	-	-	-	-
松田町	-	-	-	-	-	-	-	-
山北町	0	0	0	0	0	0	0	0
愛川町	-	-	-	-	-	-	-	-
清川村	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	0	0	0	0	0	0	1

※厚木市、伊勢原市、松田町、愛川町は、ダム湖上流域に全くかからないため、実施箇所なし。

Ⅳ 溪流生態系の再生

(2) 溪流生態系の保全・再生事業の実施

溪畔林の整備（年度別実績）

（単位：ha）

	森林整備							
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
相模原市	1.65	1.05	1.26	0.00	0.00	0.00	0.00	3.96
秦野市	0.46	0.00	0.00	0.00	1.13	1.13	0.45	3.17
厚木市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
伊勢原市	0.00	1.26	1.58	0.47	0.65	1.16	0.00	5.12
松田町	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
山北町	1.80	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.80
愛川町	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
清川村	2.01	0.00	0.00	1.35	0.00	0.00	0.00	3.36
計	5.92	3.31	2.84	1.82	1.78	2.29	0.45	18.41

（単位：m）

	植生保護柵							
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
相模原市	0	0	0	0	0	0	0	0
秦野市	0	0	0	0	80	0	0	80
厚木市	0	0	0	0	0	0	0	0
伊勢原市	0	0	0	0	0	0	0	0
松田町	0	0	0	0	0	0	0	0
山北町	0	402	0	0	0	0	0	402
愛川町	0	0	0	0	0	0	0	0
清川村	285	0	0	0	0	0	0	285
計	285	402	0	0	80	0	0	767

（単位：m）

	丸太筋工							
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
相模原市	70	0	234	0	0	0	0	304
秦野市	12	0	0	0	86	0	0	98
厚木市	437	0	0	0	0	0	0	437
伊勢原市	0	50	22	0	0	0	0	72
松田町	0	0	0	0	0	0	0	0
山北町	0	154	0	0	0	0	0	154
愛川町	0	0	0	0	0	0	0	0
清川村	606	0	0	60	0	0	0	666
計	1,125	204	256	60	86	0	0	1,731

V シカ等の野生生物保護管理

(2) 山地域（シカ管理計画における生息環境管理エリア）での森林整備とシカ管理の連携

〔重点〕森林整備とシカ管理の連携（年度別実績）

奥山域・山地域管理捕獲

(単位：頭)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
相模原市	18	21	26	23	23	31	39	181
秦野市	102	81	86	103	121	141	175	809
厚木市	15	10	10	8	1	4	8	56
伊勢原市	12	13	17	23	11	8	8	92
松田町	43	24	33	20	33	48	40	241
山北町	235	176	253	215	263	241	245	1,628
愛川町	0	0	0	0	0	0	0	0
清川村	59	50	42	73	72	93	104	493
計	484	375	467	465	524	566	619	3,500

※上記表は、自然植生回復地域（奥山域）と生息環境管理地域（山地域）の合計値。

上記のうち、WLR分

(単位：頭)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
相模原市	18	21	26	23	23	31	39	181
秦野市	67	58	58	59	84	101	129	556
厚木市	0	0	0	0	0	0	0	0
伊勢原市	1	1	0	0	0	0	4	6
松田町	14	14	5	12	18	23	15	101
山北町	153	120	153	154	187	175	187	1,129
愛川町	0	0	0	0	0	0	0	0
清川村	41	41	33	64	57	68	54	358
計	294	255	275	312	369	398	428	2,331

シカ被害軽減のための捕獲（市町村実施）

(単位：頭)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
相模原市	160	155	121	158	217	236	122	1,169
秦野市	131	98	119	122	190	209	217	1,086
厚木市	117	130	130	138	145	110	84	854
伊勢原市	45	57	75	122	66	96	91	552
松田町	129	111	114	122	134	171	126	907
山北町	624	607	703	676	717	865	689	4,881
愛川町	38	33	29	12	24	22	18	176
清川村	104	83	111	91	112	106	103	710
計	1,348	1,274	1,402	1,441	1,605	1,815	1,450	10,335

※被害防除対策地域（里山域）のシカ捕獲数。（県実施の捕獲は含まない）

Ⅶ 外来種の監視と防除

(1) 外来種の監視と進入未然防止

アライグマ等の外来生物の情報収集と監視（年度別実績）

（単位：頭）

	アライグマ捕獲数							計
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	
相模原市	46	94	49	92	58	57	101	497
秦野市	13	20	15	22	29	22	26	147
厚木市	16	8	20	39	18	48	56	205
伊勢原市	4	7	6	15	29	18	41	120
松田町	0	0	0	0	0	0	0	0
山北町	1	0	0	0	0	0	0	1
愛川町	38	43	46	41	24	34	34	260
清川村	0	1	0	0	0	0	0	1
計	118	173	136	209	158	179	258	1,231

※従前は暦年の捕獲数を記載しているが、R5以降は年度の捕獲数を記載。

Ⅷ 自然公園の利用のあり方

(1) 登山者による環境への影響軽減対策

登山道等の整備・維持管理（年度別実績）

（単位：路線）

	登山道整備						
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
相模原市	0	0	0	0	0	0	0
秦野市	0	3	3	1	0	0	0
厚木市	0	0	0	0	0	0	0
伊勢原市	1	1	2	0	0	0	0
松田町	2	1	0	0	0	0	0
山北町	3	2	2	0	0	1	1
愛川町	0	0	0	0	0	0	0
清川村	4	2	0	0	2	0	0
計	10	9	7	1	2	1	1

※年度ごとに重複路線有。

丹沢大山自然再生計画
実施状況
(第 1 期～第 4 期)
暫定版

特定課題Ⅰ ブナ林の再生

1 施策の基本方向

光化学オキシダントなどによる大気の影響やシカの採食圧による林床植生の退行が引き起こす土壌乾燥化、大量発生したブナハバチの摂食圧などによるブナ林の衰退・枯死を防ぎ、後継樹の更新を促進させ、ブナ林の再生をめざす。

2 主要施策ごとの事業実施状況

(1) ブナ林(奥山域自然林)の保全・再生対策

①重点ブナ林(奥山域自然林)の保全・再生対策

ブナ林の衰退実態の解明、衰退機構の解明、再生技術の開発、事業連携による再生事業の開始へと段階的に進め、平成29年度からは、研究成果を用いて2016(平成28)年度に作成した「丹沢ブナ林再生指針」を活用し、檜洞丸等の再生優先地等における再生対策事業を実施した。そして、2022(令和4)年度までの成果とりまとめの一環として、2024(令和6)年1月発行のセンター報告18号でブナ特集号を作成した。

対策事業については、再生優先地等において、植生保護柵の設置・維持管理、ワイルドライフレンジャーによるシカ捕獲、及びブナハバチの防除を連携して実施したことにより、土壌保全が図られた。

効果検証モニタリングとして、植生保護柵内外での更新木・植生回復モニタリングを実施した。また、ブナの衰退状況モニタリングを実施した。

主稜線のブナ林の衰退・枯死により拡大してきたと考えられる草地・裸地について、空中写真を用いて1970年代から2020年代の推移を調査したところ、2000年代をピークに面積が若干減少する傾向を確認した。

表1-1 重点対策地区(檜洞丸等)における取組

項目	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
植生保護柵 (単位：m)	—	24,150	19,216	43,366
植生保護柵 (単位：ha)	11.00	21.07	11.76	43.83
土壌保全対策 (単位：ha)	79.50	70.81	60.72	211.03

「—」は、各期において実績を取りまとめていない、又は実施していない項目。

②ブナ林(奥山域自然林)生態系のモニタリングの実施

ブナ林(奥山域自然林)の保全・再生の取組を順応的に進めるため、丹沢山地の各種再生事業地において、次のモニタリングを実施した。

- ・ オゾン・気象モニタリング

オゾンの観測から林冠ギャップが小さい地点でオゾン濃度と風速が低下するとの結果が得られた。

気象については、鍋割山、丹沢山、檜洞丸、菰釣山の4地点で観測施設の維持管理を継続し、通年観測によるリアルタイムの気象データをweb上で公開した。

- ・ 衰退状況モニタリング

過去の空中写真を用いて年代ごとの土地被覆データを作成し、1970年代からの草地・裸地の変化を把握したところ、増加傾向にあった草地・裸地は2000年代をピークに若干減少する傾向であった。

檜洞丸のブナ林再生事業地でUAVを用いた衰退状況モニタリングを実施し、高精度の基盤データが整備した。

丹沢山地広域でギャップが形成されると、その周辺では風やオゾンが林内へ流入し、ブナハバチが生存・産卵しやすい環境となり、複合影響が助長されることなど、衰退機構を整理した。

- ・ ブナハバチモニタリング

ブナハバチは近年大発生しておらず食害発生地で繭の密度も減少傾向にあり、食害発生リスクは低下している。

- ・ 生態系モニタリング

鳥類では植生の発達した柵内で確認される頻度が高くなる種群や、食物資源が多いと確認される頻度が高くなる種群が認められた。

③ブナ林の衰退により生じた草地における森林再生試験

ブナ等樹木が集団で枯死した場所（大規模ギャップ）において、森林再生の可能性を検討するため、檜洞丸、竜ヶ馬場、丹沢山、堂平、天王寺尾根、大室山などの地区において植生保護柵の内外に調査枠を設定し、植生と更新木の調査を行った。その結果、ブナ等による森林再生を期待できる状況で更新が進んでいる箇所も確認できた。

表1-2 平成30年度以前に大規模ギャップに設置した植生保護柵内外の平均群落高

地 区	柵設置年度	調査年度	調査区の平均群落高	
			柵内	柵外
檜洞丸地区	H29～H30	R 5	135～230cm	111～131cm
不動ノ峰地区	H22	R 5	127～197cm	42～49cm
丹沢山（清川）地区	H20	R 5	202～330cm	100～109cm

④国有林や近隣自治体と連携した保全・再生対策の実施・検討

菰釣山では、東京神奈川森林管理署との相互協力協定により、ブナハバチおよび大気・気象モニタリングを行った。大室山では横浜市との連携により、令和3年に設置された植生保護柵の柵内外で植生および更新木調査を行った。

(2) ブナ林(奥山域自然林)の衰退原因の低減対策

① 重点奥山域におけるシカの管理捕獲

シカの生息密度を低減するため、平成15年度から、県猟友会への委託による猟犬を用いた巻狩り（組猟）を実施した。加えて、第2期計画からは、ワイルドライフレンジャーによる高標高域を中心とした管理捕獲を行った。さらに、一部地域では民間事業者等を活用した捕獲も開始するなど、持続可能な管理の仕組みを検討した。

また、生息密度等のモニタリングによって、継続的に管理捕獲を行った場所の生息密度は低下傾向であることを確認した。

シカの生息密度が低下した森林では、林床植生の増加や場所によっては絶滅危惧種の出現もみられるようになった。

表 1-3 シカ捕獲頭数（県実施）

（単位：頭）

項目	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
生育環境管理エリア (≡奥山域+山地域)	1,562	2,544	3,500	7,606
うちワイルドライフレンジャー	—	1,039	2,331	3,370

「—」は、各期において実績を取りまとめていない、又は実施していない項目。

② ブナハバチの密度抑制手法の確立

ブナハバチの成虫発生状況モニタリングとブナ展葉フェノロジー調査※5により、ブナハバチの大発生に備えて、発生予察のためのデータの蓄積が進んだ。

中～大規模の食害が予測された平成25年度と27年度には、丹沢山、檜洞丸及び大室山において樹幹粘着シートを使った幼虫捕獲を試験的に実施した。

また、薬剤の樹幹注入の影響は、注入当年に葉及び未熟堅果を摂食する昆虫に限られることを明らかにした。

(3) 奥山域の森林生態系の保全対策

① 重点林床植生衰退地等での土壤保全対策の実施

第1期計画から、丹沢大山国定公園特別保護地区の自然林において、シカの影響等による植生劣化とそれに伴う土壌流出を防止するため、植生保護柵や金網筋工等の土壤保全工を実施した。加えて、第3期計画から県有林内の高標高域人工林において、土壤保全工の実施と併せて、森林内の光環境改善を図るための受光伐を行った。事業実施箇所では植生の増加が見られ、土壌の保全が進んだ。

第3期計画からは、登山道周辺の裸地化と土壌侵食等も考慮し、周囲の自然林の土壤保全対策と一体的に木道や構造階段の設置を行った。これらの事業実施箇所では、木道や構造階段の下の地面の植生回復、また土壤保全工による落葉堆積が確認された。

②植生保護柵による希少植物の保全

これまでに設置した奥山域の植生保護柵について、2年～3年に1回の頻度で点検するとともに、必要な維持補修を行った。

継続的に希少植物の生育状況調査を行い、オオモミジガサなどの絶滅危惧植物種を確認したほか、植生保護柵により希少植物が長期にわたり保全されることを明らかにした。

特定課題Ⅱ 人工林の再生

1 施策の基本方向

手入れ不足やシカの過剰な採食圧により人工林が荒廃しているので、地域特性に応じた森林整備やシカの個体数調整を行い、水源かん養機能や生物多様性等の公益的機能が向上した人工林の再生をめざす。

2 主要施策ごとの事業実施状況

(1) 地域特性に応じた適切な森林整備の推進

①公益的機能を重視した混交林等への転換

県営林(承継分収林除く)及び県、市町村が公的管理を行なっている私有林など(水源林等)のうち、林道から遠いなど採算性の低い地域のスギ・ヒノキの人工林において、間伐等の森林整備を繰り返し実施することにより、光環境の改善による広葉樹の稚樹の発生や成長を促進し、混交林等へ転換するなど水源かん養機能等を重視した森林整備を進めた。

また、必要に応じて、土壌流出防止のための土壌保全工やシカの採食圧防止のための植生保護柵を設置した。

表2-1 森林整備(混交林化)の実施状況

(単位: ha)

項目	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
混交林化面積	2,505	3,699	6,124	12,328

②森林資源の活用による持続可能な人工林の整備

県営林、承継分収林及び県、市町村が公的管理を行なっている私有林など(水源林等)のうち、林道に近いなど採算性が見込める地域のスギ・ヒノキの人工林において、間伐や枝打ち、つる切り等の森林整備を行って光環境を改善するとともに、間伐材の搬出を行い、有効活用を図った。また、シカの影響等による林床植生の衰退及び土壌流出を防止するため、必要に応じて植生保護柵等の土壌保全工や管理捕獲を実施した。

そのほか、森林資源の有効活用による持続的な森林管理に向けた取組として、森林組合等の長期施業受委託による施業の集約化を支援した。

かながわ森林塾では、新規就労者向けの「森林体験・演習林実習コース」を実施して林業事業体への就職を促進したほか、既就業者向けの「素材生産技術・流域森林管理士コース」を実施し、技術、知識レベルの向上を図った。事業を開始した平成21年度以降「演習林実習コース」を修了した220名のうち、158名が新規就労者として林業事業体へ就職している。

表2-2 森林整備（資源活用）の実施状況

(単位：ha)

項目	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
県事業	694	1,285	757	2,736
補助事業	2,332	2,941	4,851	10,125
計	3,026	4,226	5,608	12,860

表2-3 演習林実習コース実施状況

(単位：人)

項目	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
受講者数	—	—	93	93
修了者数	—	84	84	168
就労者数	—	57	68	125

「—」は、各期において実績を取りまとめていない、又は実施していない項目。

③山地域自然林（広葉樹二次林・モミ林等）の保全・再生対策

平成29年に県内で初めてナラ枯れ被害を確認した後、被害の急速な拡大を受け、令和3年5月に「神奈川県ナラ枯れ被害対策ガイドライン」を作成し、基本的な被害対策の考え方や手法等を示した。

ガイドラインに則った助言指導や技術的な支援等により、森林管理者等による伐倒駆除等の対策が行われたほか、県が実施したデジタル衛星画像を用いた広域の被害状況の調査結果を提供することにより、市町村における被害の実態把握と対策の検討を支援した。

(2) 森林整備とシカ管理の連携

①重点シカ管理を統合した森林管理の推進

水源の森林づくり事業などの森林整備に関する情報共有を行い、森林整備と連携したシカ管理を実施した。巻狩りによる管理捕獲を継続して行ったほか森林作業用径路やモノレールを利用して効率的な捕獲を行った。また、森林整備とシカ管理の効果を検証するため、林床植生や林分構造の調査を実施するとともに、自動撮影カメラを設置してシカの出現頻度を調査したところ、スギ・ヒノキ上層の下層に低木層や亜高木層が認められ、階層化の兆しが確認できた。

なお、下層の広葉樹は、シカの不嗜好性樹種で樹高は4 m以下であること、自動撮影カメラには多くのシカが撮影される等、人工林における広葉樹の混交実態とシカの生息状況がわかってきた。

②森林整備地におけるシカ管理手法の検討

県内も含め、既に全国の国有林では森林管理署によるシカ捕獲が実施されている。

森林管理者による効果的なシカの捕獲手法を検討するため、自然環境保全センターでは、

令和2年度以降、県営林において民間事業者への委託によるシカのわな捕獲を実施する中で錯誤捕獲時の対応等、注意点を洗い出し、仕様書（案）を取りまとめるとともに県営林管理者との打合せや現地研修などを行った。

(3) 県産木材の有効活用の促進と基盤の整備

①県産木材の有効活用の促進

私有林において、森林整備により発生する間伐材の搬出支援として、森林組合や森林所有者等が行う間伐材の集材や運搬にかかる経費を助成するとともに、指導員による造材、仕分け指導を行った。県営林においては、主伐及び間伐を実施し木材搬出を行った。作業道等の整備に伴い高性能林業機械の使用例も増えてきた。

かながわ認証木材活用促進事業及び県産木材活性化対策事業により、県産木材の産地認証・品質認証木材の着実な供給を行うとともに、県産木材の認知度向上や消費拡大を図るため、県産木材普及促進事業等により、一般消費者への木材PRイベント（かながわ家づくりフェア等）の実施した。D材（丸太の生産に伴い発生する枝葉や幹の末端部）の活用のため、バイオマス燃料への活用を進めた。

市町村のモデル事業として、森林環境譲与税により、公共木造施設の内装木質化や、県産木材製品（カスタネット）の保育園等への配布を実施した。

表2-4 県産木材の搬出状況

(単位:m3)

項目	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
間伐材搬出量	28,818	49,039	104,821	182,678

※丹沢大山エリア内の搬出量

②林道の改良と作業道の整備

県営林道で法面保全、舗装、橋梁塗装等の整備を行い、車両通行の安全性向上及び森林整備等の効率性を高めた。

市町村等への補助事業（協力協約推進事業、長期施業受委託事業、地域水源林整備事業）により作業道・作業路の整備を行い、森林整備や木材搬出等の効率性の向上や通行の安全が図られ、持続的な森林管理のための基盤整備が進んだ。

表2-5 林道改良の実施状況 (箇所数・延べ数値)

項目	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
林道改良事業 箇所数	74	29	18	121

県事業：県営林道 補助事業：なし

表2-6 作業道・作業路整備状況

項目	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
路線数	—	82	200	282
延長(m)	—	—	180,219	180,219

県事業：なし／補助事業：協力協約事業、長期受委託事業

「—」は、各期において実績を取りまとめていない、又は実施していない項目。

(4) 森林モニタリングの実施

①重点森林モニタリングの実施

対照流域法によるモニタリング調査

県内4箇所にて設けた試験流域において、水と土砂流出に関するモニタリングを継続した。4箇所のうち大洞沢（東丹沢）とヌタノ沢（西丹沢）では、林床植生の回復による森林の水源かん養機能の維持向上、貝沢（小仏）では間伐による水源かん養機能の維持向上を検証し、フチヂリ沢（箱根）では、流出特性を把握した。

シカの影響が大きい丹沢山地の試験流域（大洞沢、ヌタノ沢）では、植生保護柵を設置した実施流域で林床植生の回復がみられ、特にヌタノ沢で回復が顕著であった。ヌタノ沢の出水時の水の濁りに関しては、植生保護柵の無い対照流域を基準として、柵を設置した実施流域における柵設置前・後を比較すると、柵設置後のほうが水の濁りが少ない傾向であった。

なお、令和元年度には、台風の影響により各試験流域の観測施設が被災したため、復旧工事を行うとともに、林地被害状況等を把握した。

森林生態系効果把握調査

定点調査地の2時点の調査結果から、間伐後5年経過時点で林床植生の植被率が高くなり、林床植生との結びつきが強い分類群・機能群の種数及び個体数が増加するなど、間伐が生物多様性を高めることを示唆する結果が得られた。

特定課題Ⅲ 地域の再生

1 施策の基本方向

丹沢大山の林業を支えてきた山麓の集落では、森林荒廃及び野生生物による農林業被害の増加が問題となっているため、野生動物による被害の軽減を図り、地域のなりわいの再生をめざす。

2 主要施策ごとの事業実施状況

(1) 地域主体の鳥獣被害対策や森林整備等の取組の支援

①重点地域主体の鳥獣被害対策や、地域特有の課題に応じた森林整備等の実施の支援

平成29年4月に設置した「かながわ鳥獣被害対策支援センター」では、鳥獣被害対策や農業、林業の専門職員を配置し、重点取組地区を選定して、地域の実情に応じた対策の提案や対策手法に関する情報提供、対策を実施する際の技術的アドバイスなど、地域ぐるみの鳥獣被害対策の立ち上げを支援し、立ち上げ後の活動のフォローアップを実施した。重点取組地区では、藪刈や防護柵の設置、捕獲等の自主的な取組が増えると共に、段階的に隣接地域への波及に至る地区も出てきた。

J A 神奈川県中央会等と連携して、かながわ鳥獣被害対策アドバイザー制度を運用実施し、農家が気軽に相談できる身近なアドバイザーの育成と活動支援に取り組んだ。

農家等が主体的に有害鳥獣の捕獲に関わることができるよう、狩猟免許の取得のための費用を助成した。狩猟免許取得の推進により、わな猟免許所持者が増加する傾向にある。

各市町村や団体が行う有害鳥獣の捕獲や防護柵の設置、6市町村が行うヤマビル被害防除に係る経費に対して補助を行ったほか、平成21年3月に「ヤマビル対策マニュアル」を作成した。

森林の持つ公益的機能の維持向上を図りつつ、「里山再生」、「森林病虫獣害対策」、「ヤマビル対策」など地域特有の課題に対処する森林の確保及び整備を行った。

「統合再生流域」の東丹沢2（清川村の小鮎川流域及びその周辺からなる流域）のプロジェクトとして、ヤマビル調査を行うとともに、水源林整備事業で広葉樹林の受光伐や土壌保全工を実施した現場の視察を行った。また、平成30年度は「現地検討会」として、大磯町の地域主体による鳥獣被害対策現場の視察と意見交換を行い、関係者間で課題や今後の取組等の情報共有を図った。

表3-1 かながわ鳥獣被害対策アドバイザー

項目	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
登録人数	—	—	81	81

「—」は、各期において実績を取りまとめていない、又は実施していない項目。

表3-2 狩猟免許の取得人数

項目	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
合格者数	—	—	3,800	3,800

「—」は、各期において実績を取りまとめていない、又は実施していない項目。

②地域が一体となった自然再生活動への協力

地域の観光協会やNPO等が実施する、地域の特色を活かした事業への支援のため、水源地域の豊かな自然や生物多様性の大切さを実感し、郷土文化と触れ合う場を都市地域住民に提供する自然体験交流事業について、広報や開催費の支援を行った。

これにより、都市地域住民に対して水源地域の魅力を発信すると共に水源環境への理解の促進が図られた。

③ナラ枯れ対策の支援

平成29年に県内で初めてナラ枯れ被害を確認した後、被害の急速な拡大を受け、令和3年度に「ナラ枯れ被害対策ガイドライン」を作成し、基本的な被害対策の考え方や手法等を示した。

ガイドラインに則った助言指導や技術的な支援等により、森林管理者等による伐倒駆除等の対策が行われたほか、県が実施したデジタル衛星画像を用いた広域の被害状況の調査結果を提供することにより、市町村における被害の実態把握と対策の検討を支援した。

(2) 里地里山の保全等の促進

①里地里山の保全・再生・活用

条例に基づいて選定された8つの地域において、認定里地里山活動協定に基づいて保全等の活動を行う14団体の農林地等の保全・再生、体験教室等に要する経費に対し、市町村が補助するのに要する経費を「認定協定活動団体支援事業」により助成した。

(3) 環境保全に配慮した農業の推進

①環境保全に配慮した農業の推進

環境保全型農業直接支払事業により、延べ10市町で化学合成農薬等の使用量削減等の取組が実施された。「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律」に基づくエコファーマーの認定者数は171名となった。当該法律の廃止に伴い、令和4年7月に施行された「みどりの食料システム法」に基づく「環境保全型農業等の環境負荷低減事業活動を実施する計画（耕種農業に関するもの）」の認定件数は17件、そのうち、エコファーマーの認定件数は16件となった。

特定課題Ⅳ 溪流生態系の再生

1 施策の基本方向

林床植生の衰退に伴う土壌流出や植林等による溪流沿いの自然林の減少、災害防止や森林回復のための砂防・治山施設などが溪流生態系に影響を与えているため、土壌保全や溪畔林を整備し、生物多様性に富んだ溪流の再生をめざす。

2 主要施策ごとの事業実施状況

(1) 溪流生態系の調査モニタリングと保全・再生手法の検討

① 溪畔林整備地のモニタリング

第1期及び第2期計画では、9つの流域を対象に溪畔林の整備とモニタリングを実施し、流域ごとの整備手法の評価及び植生の変化状況を取りまとめた。これをもとに、溪畔林へ導くための初期段階の整備技術を「溪畔林整備の手引き」（平成29年3月）として取りまとめた。さらに、水源林等の私有林においても「溪畔林整備の手引き」を活用した森林整備が行われるよう、「溪畔林整備の流域別事例集」を作成した。

第2期までに実施した溪畔林整備地のモニタリングを継続し、整備後7～11年経過後の林床植生調査、樹木の生育状況調査等を実施した。植生保護柵内の林床植生の増加に加え、低木から高木性樹種の侵入、定着がみられたことから、植生保護柵の設置が溪畔林構成樹種の成長に有効であることがわかった。

溪流環境調査は、溪畔林の整備を実施した9つの流域と整備を実施していない相模川水系唐沢川の計10溪流で秋季に実施した。調査項目は魚類採捕調査、食性調査、底生物調査、流下生物調査及び落下生物調査等に加え、水質、流速等の環境データも収集した。溪畔林整備の効果を、魚類を指標に評価する方法を検討したところ、採捕した魚類の胃から昆虫（チョウ目やアリ科）が多く検出された溪流では樹冠が密である傾向が見られ、樹冠の発達が魚類の餌の増加に寄与している可能性が示された。

② 淡水魚類のモニタリングと保全方策の検討

相模川水系4支流と酒匂川1支流からヤマメ（「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」絶滅危惧ⅠA類）とカジカ（同絶滅危惧Ⅱ類）を採捕して分布を調査したほか、ヤマメの外部形態についてパーマークや朱点の解析を行うとともに、遺伝子の解析を行った。

酒匂川水系及び相模川水系のヤマメの遺伝子解析で、合計8つのハプロタイプの存在を明らかにし、酒匂川水系では、外部形態、放流履歴、遺伝子解析から丹沢ヤマメの生息域を6支流推定した。稚魚の生息調査により、その育成環境と丹沢におけるヤマメの産卵時期が明らかになった。

また、酒匂川水系在来ヤマメを由来とするヤマメ種苗を試験生産した。また、酒匂川漁業協同組合に当场で生産した種苗を提供して飼育技術を指導したほか、漁協にてヤマメの採卵を指導した。

カジカについては、平成24年度に採捕魚の一部を絶滅した上流エリアに放流するなど保全対策を講じた。

(2) 溪流生態系の保全・再生事業の実施

①ダム湖上流域における土砂流入防止対策

土石流災害から人命や財産を守るため、砂防堰堤工等の砂防事業を実施した。

また、荒廃した溪流の保全や崩壊地の復旧を図るため、谷止工や山腹工等の治山事業を実施した。これらの取組を通じて、ダム湖への土砂流入を抑制した。

表4-1 治山事業実施状況

項目	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
箇所数	91	74	81	246

治山事業に係る森林整備を含まない

表4-2 砂防事業実施状況

項目	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
箇所数	3	1	1	5

③ 森林土壌保全による溪流への土壌流入防止対策

I-2 (3) ①に記載のとおり。

③溪畔林の整備

「溪畔林整備の手引き」を活用し、平成28年度までに県有林内で行った溪畔林整備地について、植生保護柵の点検・補修を行い、シカによる影響を排除することで、良好な溪畔林が生育する環境を確保した。

また、水源の森林づくり事業地の沢沿いで間伐等の森林整備、植生保護柵の設置による植生の回復、丸太筋工等の設置による土砂流出防止対策等の溪畔林整備を実施した。

表4-3 溪畔林整備実施状況

項目	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
森林整備 (単位：ha)	22.3	17.78	18.4	297.1
植生保護柵 (単位：m)	8,620	2,473	767	11,860
丸太筋工 (単位：m)	2,626	1,846.5	1,731.2	6,203.7

④モデル流域における溪畔林等自然林の再生

丹沢県有林内でサントリーホールディングス株式会社と連携して森林整備等を行っている自然再生プロジェクトの実施地をモデル流域の候補地として選定した。モデル流域としての今後の取組を検討するため、溪流沿いの過年度の植生保護柵設置箇所や広葉樹植栽地等の状況について関係者で確認を行った。

特定課題Ⅴ シカ等野生動物の保護管理

1 施策の基本方向

奥山・山地域においては、手入れ不足やシカの高密度化等により植生の衰退が進み、里山域では農林業への被害が増加している。そのため、景観域に応じたシカの個体数調整と生息地管理の一体的実施などにより、適正なシカ密度を維持する。

2 主要施策ごとの事業実施状況

(1) 奥山域（シカ管理計画における自然植生回復エリア）でのシカ生息密度低減

①重点奥山域におけるシカの管理捕獲

I-2 (2) ①に記載のとおり。

②植生保護柵の効果的な設置と維持管理

I-2 (3) ①②、Ⅵ-2 (2) ①に記載のとおり。

(2) 山地域（シカ管理計画における生息環境管理エリア）での森林整備とシカ管理の連携

①重点シカ管理を統合した森林管理の推進

Ⅱ-2 (2) ①に記載のとおり。

表5-1 シカの捕獲頭数（県実施）

項目	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
生育環境管理エリア (≡奥山域＋山地域)	1,562	2,544	3,500	7,606
うちワイルドライフレンジャー	—	1,039	2,331	3,370

「—」は、各期において実績を取りまとめていない、又は実施していない項目。

②森林整備地におけるシカ管理方法の検討

Ⅱ-2 (2) ②に記載のとおり

(3) 里山域（シカ管理計画における被害防除対策エリア）での被害対策の推進

①シカの定着の解消のための捕獲

関連Ⅲ-2 (1) ①に記載のとおり。

②地域ぐるみの被害対策等の推進

Ⅲ-2 (1) ①に記載のとおり。

(4) 野生動物の保護管理手法の検討

①持続的な野生動物の保護管理手法の検討

適切な森林整備とシカ管理の連携モデルを構築するため、県有林内等の森林整備が行われた場所で、管理捕獲を実施するとともに、生息密度や植生定点調査、捕獲個体の計測及び切歯の摩滅状態等による分析を行った。

生息密度の把握については、丹沢山地に53箇所の固定調査区域を設定し、区画法による調査を行った。加えて、シカの分布状況を把握するとともに、区画法調査を補完するため、糞塊法による生息動向調査を、箱根山地など丹沢大山地域の周辺地域を含めて広域で実施した。さらに、シカの行動特性と植生への影響を把握するため、丹沢山地で生体捕獲したシカにGPS首輪を装着して行動圏を調査した。これらの調査と個体群動態推計の結果から、シカの生息状況の大まかな傾向を把握することができた。

隣接都県に関しては、「山静東神ニホンジカ・ニホンザル等情報交換会」（山梨県、静岡県、東京都、神奈川県）を通じて、生息状況等についての情報交換や研究協力を行い、都県境部での連携した取組の意識が醸成された。

ニホンザルについては、個体群の行動域の重複を解消し、追い上げなどの管理事業を効果的に進めるため、「神奈川県ニホンザル管理計画」に沿って、群れ別に個体数調整の目標頭数等を定め、捕獲を実施するとともに、行動域が行政界をまたがるニホンザル個体群に対して、隣接市町村で連携を図りながら、追い上げや追い払い、捕獲などを実施した。

管理捕獲へ新規従事者の参画を促し、実地研修の場とするとともに、農業従事者等へのわな猟免許取得を推進することで、管理捕獲に携わる新たな担い手を育成した。

また、農地における電気柵の設置や誘因要因の除去のための放棄果樹の伐採など、地域が取組に対して技術的支援や鳥獣被害防止特別措置事業費補助等による財政的支援を行った。

表5-2 関連取組状況

項目	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
GPSを新規装着したシカの個体数	—	25頭	14頭	29頭
山静東神ニホンジカ・ ニホンザル等情報交換会	—	—	6回	6回
ニホンジカ保護管理 検討委員会	7回	5回	6回	18回

「—」は、各期において実績を取りまとめていない、又は実施していない項目。

②ツキノワグマ被害防除対策の検討

ブナ科の堅果類の中でツキノワグマの主要なエサ資源と考えられるブナ、ミズナラ、コナラについて、丹沢山地の12地点で結実の豊凶を調査し、市町村等に情報提供を行った。令和2～5年度の4年間の調査によりブナの結実量が把握できた。

県民への注意喚起のため、県内の痕跡、目撃情報を収集し、ホームページでの発信を行った。また、出没が頻発する地域において自動撮影カメラを設置し、動向を監視するとともに、地域に迅速に情報提供した。

特定課題Ⅵ 希少動植物の保全

1 施策の基本方向

奥山城を中心に、希少な動植物が多く分布していますが、シカの採食圧などによる林床植生の衰退や土壌流出により急速に貴重な丹沢の動植物の生息・生育環境が悪化しているため、これらの生息・生育環境を整備し、希少動植物の保全をめざす。

2 主要施策ごとの事業実施状況

(1) 希少動植物の保全方針・対策と調査・モニタリングの検討

① 希少動植物の保全手法・対策の検討

オオタカ、ガン・カモの生息状況調査を行い、保全に係る基礎的な情報を収集したほか、神奈川県オオタカ保護指針に基づき、オオタカの生息状況調査を行い、開発事業者等へ繁殖期間中の工事について配慮を促した。クマタカに関しては、専門家の助言に基づき、森林整備や工事がその営巣に影響しないよう繁殖に配慮した。

希少動物等（ツキノワグマ、カモシカ、キツネ等）に関しては、モニタリング用に設置した自動撮影カメラの撮影記録を用いて出現状況を把握した。ツキノワグマでは、捕獲時に計測調査、標識による個体管理を実施したほか、生息状況を把握するために、県内の痕跡、目撃情報を収集するとともに、DNA試料の収集を行った。カモシカでは、シカの生息密度を調査した際に目撃情報を記録し、分布や生息密度を整理した。

「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」を改訂し、県の保護上重要な野生生物（維管束植物、コケ植物、藻類、菌類）についての生態・生育状況・存続を脅かす原因等の説明を記した「神奈川県レッドデータブック 2022 植物編」を刊行した。これを反映し、丹沢大山国定公園における指定植物の見直しを行った。

また、「神奈川県レッドデータブック（動物編）」の更新に向け、昆虫類・クモ類の調査を実施した。

表6-1 ガン・カモ類生息観察調査 (箇所数、調査面積：ha)

項目	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
調査箇所	—	—	271	271
観察箇所	—	—	167	167
調査面積	—	—	5,183	5,183

調査面積は概数

「—」は、各期において実績を取りまとめていない、又は実施していない項目。

② 淡水魚類のモニタリングと保全方策の検討

Ⅳ-2 (1) ②に記載のとおり。

④ 丹沢大山に係る指定植物の見直し・更新

「丹沢大山国定公園において許可を受けなければ採取してはならない植物」の見直しについて、有識者や関係機関等への意見照会及び自然環境保全審議会への報告を行った。さらに、環境省による法令審査等を経て告示された。

④希少動植物のレッドデータブックの更新

「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」を改訂し、県の保護上重要な野生生物（維管束植物、コケ植物、藻類、菌類）についての生態・生育状況・存続を脅かす原因等の説明を記した「神奈川県レッドデータブック 2022 植物編」を刊行した。

⑤希少動植物のモニタリング

「神奈川県レッドデータブック 動物編」の更新に向け、昆虫類・クモ類の調査を実施した。

(2) 希少動植物の保護・回復事業の実施

①植生保護柵による希少植物の保全

I-2 (3) ②に記載のとおり。

②ヤシャイノデの保護増殖と現地保全対策の実施

存在が確認されている2流域の計17個体の遺伝子分析を行ったところ、集団内の遺伝的変異は少なかったが、2つの異なる系統を含んでいることがわかった。2流域の親株から孢子培養を行い、最終的に育成できた3株を同じ流域の植生保護柵内に植え戻した。

植え戻した後もモニタリングを継続し、令和5年度の時点で2個体が順調に生育していることを確認した。

特定課題Ⅶ 外来種の監視と防除

1 施策の基本方向

徐々に丹沢大山全域に広がりつつある外来生物は、一旦侵入すると生態系に大きな影響を与える可能性があるため、監視体制を構築し、侵入の阻止を図る。

2 主要施策ごとの事業実施状況

(1) 外来種の監視と侵入未然防止

①アライグマの情報収集と監視

神奈川県アライグマ防除実施計画に基づき、市町村に寄せられた捕獲・目撃情報を収集するとともに、各種調査で設置した自動撮影カメラの記録からアライグマの情報を収集した。その結果、令和2年度に1回、奥山域で、令和5年度に丹沢山地の2か所（清川村札掛と山北町丹沢湖畔）で1回ずつアライグマが確認された。

また、かながわ鳥獣被害対策支援センターにおいて、県営施設やJAに対しアライグマ専用わなの貸出しを行った。また、地域主体の捕獲にあたって技術支援を行った。

②その他外来生物の情報収集と監視

平成24年度に宮ヶ瀬湖の外来魚の生息状況調査、再生産抑制方法の試験・調査を通じた防除を実施した。平成25年度以降は、ダム管理者（国）がそれまでに確立した防除及び再生産抑制を実施した。県は、その効果を確認するために外来魚の生息状況を調査し、減少傾向にあることを確認するとともに、ダム管理者に対し助言を行った。

また、河川管理者（県）や相模川で外来魚調査を実施している漁協、NPOなどに対し、調査計画等についての助言を行った。

特定外来生物であるクリハラリスについて、目撃情報を収集するとともに、別事業で設置された自動撮影カメラの記録から生息状況を確認した。その結果、丹沢大山地域ではクリハラリスの撮影はなかった。

③自然観察プログラムを活用した外来種問題啓発

アメリカザリガニなどの外来種の影響等に関する講座等を実施するとともに、6月から9月の土日祝日にアメリカザリガニ釣りを実施し、外来種の影響や問題点などについて学ぶ機会を提供した。また、アメリカザリガニの生体の展示や外来種問題についてのモニター展示を行った。〔R5ザリガニ釣り参加人数 580人〕

(2) 外来植物を用いない緑化手法の検討

①丹沢産の地域性苗木の育成

水源の森林づくり事業等で使用する広葉樹苗木の安定的な供給を図るため、母樹候補木等から種子を採取・精選し、発芽率、成長量を調査するとともに、苗木供給可能量の推計を行い、これらの種子を県内苗木生産者に供給し、丹沢産の種子による苗木生産を継続した。

これらの結果、第4期計画期間中で1年度あたり約30種、20,000本前後の広葉樹苗木の生産が継続された。

多種多様な広葉樹の苗を生産しているが、需要が一部の樹種に偏っているため、県内産の広葉樹について広く普及を図る必要がある。

②生物多様性に向けた緑化手法の施行

遅速緑化の試験施工を行った法面の施工地において追跡調査を行ったところ、在来木本等の侵入・定着により法面緑化が図られていることが確認された。また、これまでの成果を踏まえて第3期計画期間中に「森林土木における遅速緑化の運用」を取りまとめた。

特定課題Ⅷ 自然公園の利用のあり方

1 施策の基本方向

年間30万人と推計される（第1期計画時点）入山者が特定の登山道に集中し、登山道及びその周辺が荒廃するなど、オーバーユース問題が顕在化しているので、施設の整備・維持管理を県民と協働して実施し、自然公園の適正利用を促進する。

2 主要施策ごとの事業実施状況

(1) 登山者による環境への影響軽減対策

①登山道等の整備・維持管理

パークレンジャーや自然公園指導員が、主要な登山道（表尾根線、大倉尾根線、丹沢主稜線、東海自然歩道）などの周辺で恒常的に土壌流出や斜面崩壊が発生している箇所を中心に巡視し、直近の荒廃状況を把握したうえで、必要とされる整備を実施した。その結果、登山者の踏圧による影響が軽減され、土壌流出防止が図られた。

②重点活動団体等との協働による登山道維持管理の実施（登山道維持管理補修協定）

県と登山道維持管理補修協定を締結した4団体が7路線で実施した階段や水切り、ロープ柵などの新設・補修に対し、必要な資機材等を提供するなど、活動団体との協働による登山道維持管理を推進した結果、登山道の利用者数が多い路線に集中的かつ有効な登山道補修を行うことができ、踏圧を軽減することができた。

また、近年の豪雨災害の頻発化を受けて、西丹沢の登山道において、県、公園協会、NPOが連携して流された木橋の架け直しを行った。

表8-1 協定締結路線（協定延長）と活動団体等

大倉尾根線 (6,384m)	実施団体：NPO法人みろく山の会 活動期間：平成20年9月～ 活動内容：登山道維持管理補修、地域性苗木の試行植栽、 登山者数調査	
二俣鍋割線 (2,363m)	実施団体：丹沢山小屋組合 活動期間：平成23年9月～	
鍋割山稜線 (4,801m)	活動内容：登山道維持管理補修、登山者数調査	
下社大山線 (4,200m)	実施団体：神奈川県自然公園指導員連絡会 活動期間：平成26年2月～ 活動内容：登山道維持管理補修、登山者数調査	

表尾根線 (6,207m)	実施団体：神奈川県自然公園指導員 連絡会 活動期間：平成26年9月～ 活動内容：登山道維持管理補修、登 山者数調査	
ヤビツ峠大山線 (2,000m)	実施団体：神奈川県山岳連盟 活動期間：平成29年11月～ 活動内容：登山道維持管理補修、登 山者数調査	
菩提峠ヤビツ峠 線 (3,900m)	実施団体：神奈川県山岳連盟 活動期間：令和2年1月～ 活動内容：登山道維持管理補修	

③環境配慮型山岳公衆トイレの整備・維持管理

登山道沿いの山小屋などに設置されている浸透式のトイレは、長期間の使用により汚物が土壌に浸透し、溪流や地下水の水質に影響を及ぼすことが懸念されるため、第1期自然再生計画までに整備した環境配慮型山岳公衆トイレについて、「丹沢大山国定公園公衆トイレ運営委員会」等により維持管理を行った。さらに第2期計画から、民間事業者等が市町村と協定を締結して行う既存の浸透式トイレの環境配慮型トイレへの転換、及び市町村による環境配慮型トイレの新設に対する支援を継続している。また、平成16年に設置した丹沢山公衆トイレの改修工事を行うとともに、汚泥の引き抜きを実施した。

表 8-2 環境配慮型山岳公衆トイレ設置状況

番号	名称	設置	管理者	チップ	委員会
①	塔ノ岳公衆便所	H13	県	○	○
②	檜洞丸公衆便所	H14	〃	○	○
③	鍋割山公衆便所	H15	〃	○	○
④	丹沢山公衆便所	H16	〃	○	○
⑤	黍殻避難小屋	H12	〃		
⑥	畦ヶ丸避難小屋	H11	〃		
⑦	南山公衆便所	H15	〃		
⑧	犬越路避難小屋	H17	〃		
⑨	ユーシン公衆便所	H28	〃		
⑩	鳥尾山公衆便所	H24	秦野市	○	
⑪	花立公衆便所	H25	〃	○	
⑫	観音茶屋公衆便所	H26	〃	○	

⑬	見晴茶屋公衆便所	H27	〃	○	
⑭	三ノ塔公衆便所	H29	〃	○	
⑮	木ノ又小屋	R2	〃	○	
⑯	大倉高原山の家公衆便所	R3	〃	○	

(2) 自然公園利用に関するマナー等の普及啓発

①重点 かながわパークレンジャー・神奈川県自然公園指導員等による普及啓発活動

保全センター及びビジターセンターが共同で「丹沢登山のトイレを考えようプロジェクト」を立ち上げ、各々の施設で「山のトイレ事情」の展示を実施するとともに、平成24年度には登山者に対してトイレの利用マナーに関するアンケートを実施し、この結果を保全センターのホームページに掲載した。

また、環境配慮型山岳公衆トイレの整備が進んでいることから、登山者が多い山開きや紅葉の時期などに合わせて、パークレンジャーがトイレ紙持ち帰りキャンペーンを実施し、山でのトイレマナーの普及啓発を促進した。

パークレンジャーは、県で管理する登山道を巡視し、補修活動や不法行為の監視・指導を行うとともに、登山道補修等の県民協働行事へ参加するなど、公園利用に関する普及啓発を促進した。

自然公園指導員は、自然公園（丹沢大山国定公園、県立丹沢大山自然公園）と2つの長距離自然歩道（東海自然歩道、関東ふれあいの道）を巡視し、巡視報告書に基づき、パークレンジャーと協働で登山道の補修を行ったほか、自然公園施設や動植物に係る情報収集や、自然公園の利用に関する指導を行った。

ボラネットは、登山者や地元住民等に利用されている水場の水質調査を実施し、この結果を当団体のホームページに掲載した。

表 8-4 各取組実施状況

	項目	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
パーク レンジャー	トイレ紙 持ち帰り キャンペーン (回)	6	11	4	21
	巡視・補修 活動 (回)	527	425	509	1,461
	県民協働行事 参加・指導 (回)	304	326	278	908
自然公園 指導員	巡視活動 (回)	15,125	13,968	10,980	40,073

	登山道の補修（箇所）	175	85	27	287
県民協働	水場 水質調査（回）	148	118	101	367

②神奈川県立ビジターセンター等を拠点とした普及啓発活動

2箇所のビジターセンター（神奈川県立秦野ビジターセンター、神奈川県立西丹沢ビジターセンター）において、自然再生に関する展示や自然教室を開催し、利用者への普及啓発を推進した。

自然公園指導員、パークレンジャー等と連携してとりまとめた丹沢の自然に関する最新情報や、登山道の状況及びマナーなど、安全に登山や自然を楽しむための情報をホームページ等で発信するとともに、登山技術向上や自然観察をテーマに参加者を募って行う体験型プログラムを実施した。

エコツアーガイドの育成講座を実施し、育成講座修了生を中心に「NPO法人丹沢自然学校」が設立された。また、普及拠点として西丹沢自然教室を再整備した。これらの取組によりエコツーリズムが地域に根付き始めている。

表 8-5 ビジターセンター利用者数

（単位：人）

項目	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
秦野	533, 599	523, 351	785, 296	1, 842, 246
西丹沢	399, 748	478, 412	700, 651	1, 578, 811

(3) 自然公園における利用のあり方の検討

① 自然公園における利用のあり方の検討

水源環境保全・再生施策を踏まえた自然環境の保全・再生に関する取組の普及啓発として、登山道沿いの既存自然公園施設にPR看板を設置した。

自然公園利用にあたってのルール・マナーを解説した「自然公園利用ルール・マナーガイド」（日本語版・英語版）をビジターセンターに配置したほか、イベント会場で配布した。

「丹沢大山国定公園内キャンプ場調査実施要領（H26.7）」等に基づく調査、指導を行い、管理者等の対応を改善した。

丹沢地域の登山道を利用して毎年行われる山岳トレイルランニング大会に際し、主催者からの事前相談に対して、自然環境や歩道への影響及び一般利用者に配慮した助言を行い、トラブル等は発生しなかった。

表 8-6 水源環境保全税 P R 看板

項目名	第 1 期 (H19～H23)	第 2 期 (H24～H28)	第 3～4 期 (H29～R5)	計
設置地区数	—	—	19	19
設置枚数	—	—	58 枚	58 枚

「—」は、各期において実績を取りまとめていない、又は実施していない項目。

表 8-7 国定公園内管理指導状況

項目名	第 1 期 (H19～H23)	第 2 期 (H24～H28)	第 3～4 期 (H29～R5)	計
キャンプ場（調査）	—	92 件	49 件	141 件
キャンプ場（指導）	—	—	15 件	15 件
トレイルランニング （開催件数）	—	—	31 件	31 件
トレイルランニング （助言）	—	9 件	26 件	35 件

「—」は、各期において実績を取りまとめていない、又は実施していない項目。

② 登山者カウンターによる登山者数調査

登山者が集中する路線の傾向を把握し、登山道管理やオーバーユース対策に活用するため登山道36か所に登山者カウンターを設置して、主要な12座に登頂した登山者の数を集計した。登山者カウンターによる登山者数（各山頂への登頂者数の合計）は約503,000人であった。（調査期間は令和5年3月～令和6年2月）

登山者数調査の結果は、効率的な登山道の維持管理につなげるほか、かながわパークレンジャーや神奈川県自然公園指導員による公園利用に係る普及啓発に活用していく。

Ⅸ 各特定課題の取組を推進するための協働・普及啓発

1 施策の基本方向

8つの特定課題解決や県民参加を実行するためのしくみを構築し、丹沢大山の自然再生を総合的に推進するための基盤整備を行う。

2 主要施策ごとの事業実施状況

(1) 丹沢大山自然再生委員会を通じた連携

①民間との連携による自然再生プロジェクトの推進

県とサントリーホールディングスが協定に基づき実施しているサントリー「天然水の森 丹沢」自然再生プロジェクトの実施にあたり、技術・知見の提供を行い、本プロジェクトの目標や取組内容をまとめたプロジェクトビジョンを平成26年度に作成した。また、植生保護柵の設置や人工林の混交林化、モニタリング（動植物調査、土壌調査）など具体的な取組をまとめた5ヶ年計画を作成し取組を進めている。

当該計画に基づき、スギ・ヒノキ人工林の光環境改善による将来の混交林化に向けて、小面積(0.03～0.05ha)伐採（群状・列状）や間伐、植栽、土壌保全工、植生保護柵設置・補修などの森林整備を実施した。

また、これら整備地において植生モニタリング調査やノウサギ生息状況調査を行った。

調査の結果、伐採後の植生保護柵内において林床植生の増加やノウサギ出現頻度の増加が見られたほか、保護柵外のシカ採食圧による問題などが確認できた。

②重点団体等との協働による自然再生の取組の推進

・丹沢フォーラム

丹沢自然保護協会、緑を育む集い実行委員会、自然再生委員会の共催により、毎年実施している「丹沢フォーラム」に職員を講師として派遣し、県の取組状況を説明するなど、自然再生の取組について普及啓発を行った。

・地域環境イベントかながわエコ10フェスタ

自然再生委員会会員2団体（神奈川県自然保護協会・神奈川県公園協会）と連携して丹沢大山の自然再生の取組をPRした。（R3年をもって終了）

・秦野丹沢まつり

自然再生委員会会員4団体（神奈川県山岳連盟・みろく山の会・ボラネット・かながわ森林インストラクターの会）と連携して丹沢大山の自然再生の取組をPRした。

・ワールドフェスタ

自然再生委員会会員7団体（丹沢自然保護協会・神奈川県山岳連盟・みろく山の会・ボラネット・かながわ森林インストラクターの会・神奈川県公園協会・かながわトラストみどり財団）と連携して丹沢大山の自然再生の取組をPRした。

- ・ 森林探訪

丹沢大山地域の山麓の森林を散策しながら森林の機能等を理解してもらうため、かながわ森林インストラクターの会が長年実施してきた「森林探訪」について、平成28年度から自然再生委員会の共催とし、活動に対する技術・知見の提供を行った。

- ・ 丹沢大山自然再生活動報告会

毎年1回、活動報告会を開催し、自然再生委員会会員団体の活動内容や調査研究の報告、時宜の話題に関する講演・討論を行った。

- ・ あつぎ環境フェア

自然再生委員会会員4団体（神奈川県山岳連盟・みろく山の会・ボラネット・神奈川県公園協会）と連携して丹沢大山の自然再生の取組をPRした。

表9-1 イベント参加者数

(単位：人)

項目名	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計	備考
丹沢フォーラム	—	374	487	861	H4から開催
エコ10フェスタ	—	—	1,850	1,850	H24から参加
秦野丹沢まつり	—	—	826	826	H30から参加
ワールドフェスタ	—	—	2,840	2840	H20から参加
森林探訪	—	48	214	262	
活動報告会	405	651	1,003	2,059	H22から開催
あつぎ環境フェア	—	—	142	142	R5から参加

「—」は、各期において実績を取りまとめていない、又は実施していない項目。

「森林探訪」は、平成28年度から自然再生委員会と共催。

③学校教育との連携等による自然再生の担い手づくり

- ・ 丹沢やまみち再生体験・高校生レンジャー（巡視）体験

県高校体育連盟が主催する「夏山情報交換会」「新人登山大会」に合わせて、登山部に所属する生徒を対象に自然再生の取組を紹介したほか、登山道補修体験を実施した。

- ・ 森の学校

丹沢自然保護協会が小中学生を対象に長年実施してきた「森の学校」を平成27年度から自然再生委員会との共催とし、自然再生の必要性について考える契機となるよう、青少年を対象に自然の仕組みについて知ってもらうための自然体験や調査等を行った。

・森林環境教育

自然再生委員会が共催し、かながわ森林インストラクターの会の主催による「森林環境教育」を実施した。小学生を対象に自然環境に関する理解を深めてもらうため、やどろぎ水源林において自然観察や水源かん養機能の説明を行った。

・教育機関や民間団体等からの依頼による視察受入や研修等

自然環境保全センターは、小学校、中学校、高等学校、大学等の教育機関や、民間団体等からの依頼を受け、施設内や自然再生事業地の視察の受入れや研修等を実施し、丹沢地域及び横浜等の都市部の教育機関への普及啓発を図った。

表9-2 環境学習等イベント参加者数

(単位：人)

項目名	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
やまみち再生体験	—	222	22	244
高校生レンジャー体験	—	—	348	348
森の学校	—	221	649	870
森林環境教育（寄水源林）	—	—	20	20
県立高校校外学習	—	—	120	120

「—」は、各期において実績を取りまとめていない、又は実施していない項目。

「森の学校」は平成27年度から自然再生委員会と共催

④モデル流域によるモミ等自然林の再生

Ⅳ-2 (2) ④に記載のとおり。

(2) 県民協働の枠組みを通じた連携

①**重点**丹沢大山クリーンピア21、丹沢の緑を育む集い等による連携・協力

・丹沢大山クリーンピア21

丹沢大山国立公園を中心とする山岳地域及び周辺地域の環境保全を図るため「ゴミの持ち帰り運動」を推進し、丹沢大山クリーンキャンペーンや構成員であるボランティア会員(団体)による清掃活動を支援した。

表9-3 丹沢大山クリーンキャンペーン実施状況

項目名	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
参加団体数	608	595	404	1,607
参加人数	22,504	21,220	17,563	61,287
収集量(kg)	22,954	16,124	24,286	63,364

表9-4 ボランティア会員による清掃活動状況

項目名	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
参加団体数	63	59	58	180
参加人数	8,803	9,642	5,906	24,351
収集量(kg)	29,950	18,429	5,415	53,794

丹沢大山クリーンキャンペーンの内数

- ・丹沢の緑を育む集い実行委員会

緑を育む集いにより、植樹やウラジロモミの防護ネット設置等を行った。

表9-5 植樹活動「コリドー(緑の回廊)」実施状況 (参加人数)

項目名	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
植樹(春秋合計)	914	881	1,928	3,723

表9-6 防護ネット設置等実施状況

項目名	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
参加人数	190	106	48	344
設置本数	454	23	0	477
補修本数	—	481	151	632
撤去本数	—	31	0	31

「—」は、各期において実績を取りまとめていない、又は実施していない項目。

・ 丹沢大山ボランティアネットワーク

ボラネットの活動を支援した。ボラネット連携による主な取組状況は以下のとおり。

「自然発見クラブ」鳥の羽標本づくり（自然環境保全センター）

「はだのエコスクール」動画等による野生動物教育（秦野市内保育園・小学校）

「山の自然セミナー」丹沢のナラ枯れについて（山岳スポーツセンター）

また、丹沢大山自然公園内各地水場での水質調査についてはⅧ-5(2)①に記載のとおり。

(3) 協働・普及啓発の拠点の活用

①自然環境保全センターの自然再生活動への活用促進

フィールドスタッフ（自然保護と自然体験の指導者）として活躍する人材を育てる養成講座の実施及び身に着けた知識や技術を発揮する活動実践の場としてのミニ観察会等を実施した。

また、自然の素材を利用した工作等の体験活動を通して、身近な自然環境について学ぶ「自然発見クラブ」を実施した。

このほか、自然再生活動を実践するボランティア団体が実施する調査研究、大学生等の研修、近隣地域の教育委員会を通じた小学校の環境学習などの受け入れに、自然環境保全センター本館・野外施設の活用を促進した。

展示施設について、本館1階では、丹沢の自然再生の取組や歴史、文化等に関する壁面展示パネルを全面的に刷新、野鳥の鳴き声を用いた人感スピーカーやタッチパネルの丹沢再生クイズを設置するなど、充実させた施設を活用して普及啓発を促進させた。

本館2階では、丹沢の自然再生に関するパネル等を展示する「企画展」を年に数回テーマを変えて開催し、丹沢大山地域の自然や歴史、文化について紹介したほか、平成30年度から図書室を常時開室とし、丹沢地域の地形ジオラマの展示を開始するなど、視覚的工夫による効果も高めている。

表9-7 自然保護講座実施状況（フィールドスタッフ養成講座を含む）

項目名	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
回数	45	44	34	123
参加人数	1,388	1,285	799	3,472

表9-8 県民向け観察会の実施状況

項目名	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
回数	468	403	381	1,252
参加人数	6,963	8,641	6,233	21,837

表9-9 自然発見クラブ実施状況

項目名	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
回数	18	20	25	63
参加人数	397	475	465	1,337

表9-10 自然環境保全センター利用状況

項目名	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3～4期 (H29～R5)	計
利用者数	100,397	125,560	128,008	353,965

② 神奈川県立ビジターセンター等との連携による自然再生活動の推進

Ⅷ-2 (2) ②に記載のとおり。

(4) 自然環境・自然再生情報の蓄積と発信・活用

① ツイッター（現X）やHPを活用した自然再生情報の蓄積と発信

丹沢大山自然環境情報ステーション(e-Tanzawa)を活用し、自然再生プロジェクトの活動レポートや第1期自然再生計画以降の実施報告書を取りまとめて掲載するなど、自然再生の取組について最新の情報を提供することにより普及啓発を促進した。

また、令和2年度より自然環境保全センター独自のツイッター（現X）アカウントを取得し、自然環境保全センターの野外施設や、丹沢を中心とした山の情報、自然再生への取組等の紹介などの情報発信を行った。令和5年度1年間のポスト数は157、フォロワー数は令和7年1月時点で3,361であった。

② 自然再生委員会との協働による自然再生事業の検証

丹沢の自然再生の取組やモニタリング調査の結果を実施報告書として取りまとめ、自然再生委員会事との協働により科学的根拠に基づく評価を行い、5年を期間とする事業計画を策定するごとに、柔軟に事業の見直しを行った。

I ブナ林の再生

(1) ブナ林（奥山域自然林）の保全・再生対策

〔重点〕林床植生衰退地等での土壌保全対策の実施

(単位：ha)

	施工面積			
	第1期 H19～H23	第2期 H24～H28	第3～4期 H29～R5	計
相模原市	－	52.49	17.65	70.14
秦野市	－	0.00	4.22	4.22
厚木市	－	0.00	0.00	0.00
伊勢原市	－	0.00	0.00	0.00
松田町	－	0.00	0.00	0.00
山北町	－	18.30	38.85	57.15
愛川町	－	0.00	0.00	0.00
清川村	－	0.00	0.00	0.00
計	79.50	70.79	60.72	211.01

上記のうち、植生保護柵

(単位：m)

	第1期 H19～H23	第2期 H24～H28	第3～4期 H29～R5	計
相模原市	－	17,924	6,254	24,178
秦野市	－	0	371	371
厚木市	－	0	0	0
伊勢原市	－	0	0	0
松田町	－	0	0	0
山北町	－	6,226	12,417	18,643
愛川町	－	0	0	0
清川村	－	0	0	0
道志村	－	0	174	174
計	－	24,150	19,216	43,366

(参考) 山地域における植生保護柵の設置状況

(単位：m)

	第1期 H19～H23	第2期 H24～H28	第3～4期 H29～R5	計
相模原市	－	7,529	1,955	9,484
秦野市	－	14,128	37,175	51,303
厚木市	－	304	4,768	5,072
伊勢原市	－	2,724	2,454	5,178
松田町	－	4,965	3,168	8,133
山北町	－	19,460	11,491	30,951
愛川町	－	3,275	0	3,275
清川村	－	9,439	17,488	26,927
計	－	61,825	78,499	140,324

※高標高域人工林における実績を含む。

Ⅱ 人工林の再生

(1) 地域の特性に応じた適切な森林整備の推進

公益的機能を重視した混交林等への転換

(単位：ha)

	県事業			
	第1期 H19～H23	第2期 H24～H28	第3～4期 H29～R5	計
相模原市	－	711.27	1,683.43	2,394.70
秦野市	－	230.61	451.60	682.21
厚木市	－	22.53	62.70	85.23
伊勢原市	－	95.36	227.90	323.26
松田町	－	342.80	742.72	1,085.52
山北町	－	1,824.90	1,969.53	3,794.43
愛川町	－	0.00	2.53	2.53
清川村	－	153.39	307.97	461.36
計	2,505.00	3,380.86	5,448.38	11,334.24

(単位：ha)

	補助事業			
	第1期 H19～H23	第2期 H24～H28	第3～4期 H29～R5	計
相模原市	－	34.61	25.63	60.24
秦野市	－	17.82	146.15	163.97
厚木市	－	14.72	20.64	35.36
伊勢原市	－	5.79	25.86	31.65
松田町	－	35.13	80.86	115.99
山北町	－	39.53	42.01	81.54
愛川町	－	18.83	59.21	78.04
清川村	－	152.60	282.13	434.73
計	－	319.03	676.49	995.52

Ⅱ 人工林の再生

(3) 県産木材の有効活用の促進と基盤の整備

森林資源の活用による持続可能な人工林の整備

(単位：ha)

	県事業			
	第1期 H19～H23	第2期 H24～H28	第3～4期 H29～R5	計
相模原市	—	181.25	61.05	242.30
秦野市	—	192.90	189.25	382.15
厚木市	—	71.85	20.32	92.17
伊勢原市	—	154.14	63.68	217.82
松田町	—	153.92	156.83	310.75
山北町	—	390.85	148.61	539.46
愛川町	—	8.97	0.00	8.97
清川村	—	131.52	117.49	249.01
計	694.00	1,285.40	757.23	2,736.63

(単位：ha)

	補助事業			
	第1期 H19～H23	第2期 H24～H28	第3～4期 H29～R5	計
相模原市	—	354.66	394.13	748.79
秦野市	—	696.70	1,704.47	2,401.17
厚木市	—	362.94	419.15	782.09
伊勢原市	—	501.50	755.51	1,257.01
松田町	—	153.30	180.10	333.40
山北町	—	244.06	345.05	589.11
愛川町	—	240.44	241.33	481.77
清川村	—	388.09	811.95	1,200.04
計	2,332.00	2,941.69	4,851.69	10,125.38

Ⅱ 人工林の再生

(3) 県産木材の有効活用の促進と基盤の整備

県産木材の有効活用の促進

(単位：m³)

	補助事業、県事業			
	第1期 H19～H23	第2期 H24～H28	第3～4期 H29～R5	計
相模原市	－	12,307	26,120	38,427
秦野市	－	17,429	31,415	48,844
厚木市	－	965	8,903	9,868
伊勢原市	－	3,069	6,635	9,704
松田町	－	757	4,108	4,865
山北町	－	10,185	21,010	31,195
愛川町	－	2,248	4,413	6,661
清川村	－	2,079	2,217	4,296
計	28,818	49,039	104,821	182,678

林道の改良と作業道の整備

(単位：路線)

	林道改良		
	第1期 H19～H23	第2期 H24～H28	第3～4期 H29～R5
相模原市	－	16	25
秦野市	－	11	14
厚木市	－	0	0
伊勢原市	－	4	10
松田町	－	9	15
山北町	－	25	37
愛川町	－	0	0
清川村	－	17	10
計	74	82	111

※実数は延べ数である。県事業のみ。

(単位：路線)

	作業路			
	第1期 H19～H23	第2期 H24～H28	第3～4期 H29～R5	計
相模原市	－	6	34	40
秦野市	－	23	44	67
厚木市	－	3	25	28
伊勢原市	－	10	38	48
松田町	－	6	17	23
山北町	－	11	16	27
愛川町	－	10	25	35
清川村	－	1	1	2
計	－	79	200	279

※補助事業のみ

Ⅲ 地域の再生

(1) [重点] 地域主体の鳥獣被害対策や、地域特有の課題に応じた森林整備等の実施の支援

(関連：V 3 (2))

獣害防護柵の設置（補助事業）

(単位：m)

	第1期 H19～H23	第2期 H24～H28	第3～4期 H29～R5	計
相模原市	－	0	0	0
秦野市	－	5,300	30,583	35,883
厚木市	－	0	0	0
伊勢原市	－	12,510	22,473	34,983
松田町	－	0	0	0
山北町	－	1,046	0	1,046
愛川町	－	526	0	526
清川村	－	118	0	118
計	54,770	19,500	53,056	127,326

(2) 里地里山の保全等の促進

(単位：地域)

	里地里山活動への支援(地域数)		
	第1期 H19～H23	第2期 H24～H28	第3～4期 H29～R5
相模原市	－	0	0
秦野市	－	24	31
厚木市	－	7	18
伊勢原市	－	0	0
松田町	－	0	7
山北町	－	0	0
愛川町	－	0	0
清川村	－	0	0
計	－	31	56

※実数は延べ数である

(単位：団体)

	里地里山活動への支援(団体数)		
	第1期 H19～H23	第2期 H24～H28	第3～4期 H29～R5
相模原市	－	0	0
秦野市	－	29	38
厚木市	－	8	36
伊勢原市	－	0	0
松田町	－	0	18
山北町	－	0	0
愛川町	－	0	0
清川村	－	0	0
計	－	37	92

※実数は延べ数である

Ⅳ 溪流生態系の再生

(2) 溪流生態系の保全・再生事業の実施

ダム湖上流域における土砂流入防止対策

(単位：箇所)

	治山事業			
	第1期 H19～H23	第2期 H24～H28	第3～4期 H29～R5	計
相模原市	－	15	11	26
秦野市	－	10	16	26
厚木市	－	5	1	6
伊勢原市	－	6	5	11
松田町	－	6	2	8
山北町	－	29	41	70
愛川町	－	0	4	4
清川村	－	3	1	4
計	91	74	81	246

(単位：箇所)

	砂防事業			
	第1期 H19～H23	第2期 H24～H28	第3～4期 H29～R5	計
相模原市	－	0	1	1
秦野市	－	0	0	0
厚木市	－	－	－	－
伊勢原市	－	－	－	－
松田町	－	0	0	0
山北町	－	1	0	1
愛川町	－	－	－	－
清川村	－	0	0	0
計	3	1	1	5

※厚木市、伊勢原市、松田町、愛川町は、ダム湖上流域に全くかからないため、実施個所なし。

Ⅳ 溪流生態系の再生

(2) 溪流生態系の保全・再生事業の実施

溪畔林の整備

(単位：ha)

	森林整備			
	第1期 H19～H23	第2期 H24～H28	第3～4期 H29～R5	計
相模原市	－	0.00	3.96	3.96
秦野市	－	0.00	3.17	3.17
厚木市	－	0.00	0.00	0.00
伊勢原市	－	0.00	5.12	5.12
松田町	－	0.00	0.00	0.00
山北町	－	10.31	2.80	13.11
愛川町	－	0.00	0.00	0.00
清川村	－	7.47	3.36	10.83
計	22.30	17.78	18.41	58.49

(単位：m)

	植生保護柵			
	第1期 H19～H23	第2期 H24～H28	第3～4期 H29～R5	計
相模原市	－	0	0	0
秦野市	－	0	80	80
厚木市	－	0	0	0
伊勢原市	－	0	0	0
松田町	－	0	0	0
山北町	－	1,704	402	2,106
愛川町	－	0	0	0
清川村	－	769	285	1,054
計	8,620	2,473	767	11,860

(単位：m)

	丸太筋工			
	第1期 H19～H23	第2期 H24～H28	第3～4期 H29～R5	計
相模原市	－	0	304	304
秦野市	－	0	98	98
厚木市	－	0	437	437
伊勢原市	－	0	72	72
松田町	－	0	0	0
山北町	－	1,269	154	1,423
愛川町	－	0	0	0
清川村	－	578	666	1,244
計	2,626	1,847	1,731	6,204

V シカ等の野生生物保護管理

(2) 山地域（シカ管理計画における生息環境管理エリア）での森林整備とシカ管理の連携

〔重点〕森林整備とシカ管理の連携

奥山域・山地域管理捕獲

(単位：頭)

	第1期 H19～H23	第2期 H24～H28	第3～4期 H29～R5	計
相模原市	－	26	181	207
秦野市	－	461	809	1,270
厚木市	－	79	56	135
伊勢原市	－	85	92	177
松田町	－	248	241	489
山北町	－	1,310	1,628	2,938
愛川町	－	0	0	0
清川村	－	335	493	828
計	1,562	2,544	3,500	7,606

※上記表は、自然植生回復地域（奥山域）と生息環境管理地域（山地域）の合計値。

上記のうち、WLR分

(単位：頭)

	第1期 H19～H23	第2期 H24～H28	第3～4期 H29～R5	計
相模原市	－	20	181	201
秦野市	－	185	556	741
厚木市	－	4	0	4
伊勢原市	－	3	6	9
松田町	－	69	101	170
山北町	－	619	1,129	1,748
愛川町	－	0	0	0
清川村	－	139	358	497
計	－	1,039	2,331	3,370

シカ被害軽減のための捕獲（市町村等実施）

(単位：頭)

	第1期 H19～H23	第2期 H24～H28	第3～4期 H29～R5	計
相模原市	－	546	1,169	1,715
秦野市	－	966	1,086	2,052
厚木市	－	645	854	1,499
伊勢原市	－	382	552	934
松田町	－	212	907	1,119
山北町	－	1,285	4,881	6,166
愛川町	－	185	176	361
清川村	－	518	710	1,228
計	2,789	4,739	10,335	17,863

※被害防除対策地域（里山域）のシカ捕獲数。（県実施の捕獲は含まない）

Ⅶ 外来種の監視と防除

(1) 外来種の監視と進入未然防止

アライグマ等の外来生物の情報収集と監視

(単位：頭)

	アライグマ捕獲数			
	第1期 H19～H23	第2期 H24～H28	第3～4期 H29～R5	計
相模原市	－	710	497	710
秦野市	－	36	147	36
厚木市	－	179	205	179
伊勢原市	－	48	120	48
松田町	－	0	0	0
山北町	－	1	1	1
愛川町	－	209	260	209
清川村	－	4	1	4
計	316	1, 187	1, 231	1, 503

※従前は暦年の捕獲数を記載しているが、R5以降は年度の捕獲数を記載。

Ⅷ 自然公園の利用のあり方

(1) 登山者による環境への影響軽減対策

登山道等の整備・維持管理

(単位：路線)

	登山道整備		
	第1期 H19～H23	第2期 H24～H28	第3～4期 H29～R5
相模原市	－	7	0
秦野市	－	17	7
厚木市	－	1	0
伊勢原市	－	4	4
松田町	－	1	3
山北町	－	5	9
愛川町	－	1	0
清川村	－	0	8
計	24	36	31

※実数は延べ数である。